

報告

B型機能訓練事業における保健師の地区活動の特徴

上杉絵理* 田村須賀子

概要

保健師の地区活動の特徴を明確にすることを目的として、B型機能訓練事業を例に1人の保健師の実践過程を記述し、保健師の行為・考え・判断を分析した。その結果、109件の保健師の行為・考え・判断の記述が得られ、10の特徴が取り出された。これにより保健師の地区活動とは、「個別援助を積み重ね、地区住民・全市民の健康生活に貢献する方向性を明確にする」「住民との協働の中で、住民の主体性と地区住民全体での課題解決を促す」「保健事業を実施することを重ね、住民による支援体制と地域の資源を整える」「国や都道府県で企画された事業を、地区住民のニーズに対応させ、地区住民の実情に合うように整えて提供する」ものであると考えられた。

キーワード 保健師の地区活動, 保健師の行為・考え・判断, B型機能訓練事業

1. はじめに

行政で働く保健師は、一定の居住区に住むすべての住民の健康を守るということに責任を持ち、保健事業を地区住民へのサービスという形で提供している。保健師は、サービスを地区住民のために有効に適用させる過程の中で地区活動を実践し¹⁾、地区住民の生活の様子を知り、健康上の課題を把握し、サービスが地区住民にとって有効なものになるよう方策をとっている。だがその具体的な方法は、保健師個人の力量や経験に任されている部分が多く、同僚との地区活動の方法の共有や、先輩から後輩への技術の継承を困難にしている。保健師は、住民との協働と、保健・医療・福祉の連携と協働の下に、保健福祉関連施策に積極的に関わる必要性が強調されている^{2,3)}。現在、他職種や住民に向けて自らの活動を示すことができるよう、地区活動の方法を明確にすることは重要である⁴⁾と考える。

そこで本研究では、住民ボランティア（以下、協力員）の参加を図りながら、地域づくり対策⁴⁾の一環として市町村保健師により実施されている、B型（地域参加型）機能訓練事業（以下、Bリハ事業）を例に、保健師の実践過程を記述することにより、地区活動の特徴を明確にする。

2. 方法

2.1 研究対象

研究対象は、保健師の地区活動の実践過程である。本稿は、ある1名の保健師が、A市C地区で

*元石川県立看護大学

Bリハ事業を実施した活動の実践過程を分析する。この保健師は、市町村保健師として4年従事していた。対象とした活動期間は、保健師がC地区でのBリハ事業を主に担当した、事業の企画から開始後約半年間の平成13年6月～平成14年3月までである。

Bリハ事業は、老人保健法に基づく保健事業であり、老化等により心身機能が低下している者に対し、閉じこもりを防止し介護を要する状態となることを予防することを目的としている。市町村保健師等が、住民にとって身近な公民館等で、地域のボランティアを活用して実施している⁵⁾。A市C地区では、保健師等がC地区在住の協力員3名と共に、C地区公民館において15名を対象に、月2回、1回2時間程度実施した。実施内容は、問診、脈拍・血圧測定、転倒予防体操、レクリエーション等である。

A市は人口約11万人、高齢化率約18%（H13）で、人口は約10年間ほぼ横ばいであるが、高齢化率は上昇している⁶⁾。C地区は人口約400人、高齢化率約18%、世帯数約140（H13）、昭和40年代に新興住宅地として市内外より人が集まったが、現在は人口異動が少ない地区である⁶⁾。老人会、婦人会といった町内組織があり、定期的に活動されているが、世代間の交流の機会や古くからの近所付き合いは少ない。

2.2 データ収集方法

保健師の行為・考え・判断を含めた活動再現記録を時系列に記述する。活動再現記録には、直接

住民と関わる活動（住民との話し合い，対象者への家庭訪問等）の他，スタッフ会議，関係機関への電話連絡等も含む。A市担当保健師の了解を得た上でデータ収集を行い，記述に際しては住民個人が特定されないよう留意した。

2. 3 分析方法

援助再現記録内の保健師の行為・考え・判断の記述内容を，意味のある文章や段落単位で取り出し，その内容の意味を読み取り，同じ内容のものは統合し，分析の視点（a. 地区住民のニーズ把握，b. 地区住民のニーズへの対応，c. 地区住民のニーズの優先度の判断，d. 地区住民のニーズに見合った保健行政サービスとしての取り組み方法，e. 国で企画された保健事業の活用）で分類した。その後，内容が類似するものをまとめ，特徴を取り出した。この分析の視点をを用いる方法の有効性は，研究者等の先行研究により確認されている⁷⁾。

3. 結果

援助再現記録内の保健師の行為・考え・判断の記述内容を，意味のある文章や段落単位で取り出し，その内容の意味を読み取り，同じ内容の記述を統合した結果，109件の保健師の行為・考え・判断の記述が得られた。それらを分析の視点で分類した結果，a. 地区住民のニーズ把握：27件，b. 地区住民のニーズへの対応：46件，c. 地区住民のニーズの優先度の判断：2件，d. 地区住民のニーズに見合った保健行政サービスとしての取り組み方法：31件，e. 国で企画された保健事業の活用：3件，であった。

その後，内容が類似するものをまとめた結果，10の特徴が取り出された（表1）。特徴ごとに以下に説明する。文中の（）内の特徴の番号は表1の特徴の番号に対応している。

3. 1 信頼関係が築けるよう配慮しながら個別援助を重ね，住民の健康生活上の課題とニーズ，対応策の方向性を明確にする（特徴①）

保健師は，地区に何度も足を運び個別援助を重ねる中で，住民の生活の様子等，Bリハ事業の方向性を明確にするための情報を収集し，地区住民に共通する健康生活上の課題とニーズを把握していた。また，住民のBリハ事業への関心や理解，協力員の健康状態等を把握し，Bリハ事業実施のための住民の準備状態や課題解決力を把握してい

た。初めて住民に会う際は，住民と信頼関係が既に出来ている保健師や協力員に仲介を依頼する等，住民と信頼関係を築いていけるよう出会い方に配慮していた。

3. 2 世代を超えて，住民同士が健康の視点を通してつながり合えるきっかけをつくる（特徴②）

保健師は，Bリハ事業を地区の虚弱高齢者の社会参加への契機とするのみならず，協力員が老人の健康に関心を持ち，両者がつながり合えるきっかけとしていた。また，住民の力を引き出し，住民同士が力を合わせるようになることを促していた。

3. 3 地区住民の健康生活上の課題解決への過程を住民と共に歩む中で，住民の主体性を促す（特徴③）

保健師は，住民にBリハ事業への理解・協力を得，共に企画する中で，地区住民の健康生活上の課題について共有できるようにしたり，住民のBリハ事業への理解・関心がより高まるようにしたりしていた。また保健師は，住民が事業を実施することにやりがいを感じられるようにする，不安の軽減を図る等の援助を行い，住民が主体的にBリハ事業を実施できるよう働きかけていた。

3. 4 事業目的を果たすことを前提に，将来の健康障害予防の視点を持ち，より多くの地区住民のニーズを満たすことができるよう対策をとる（特徴④）

保健師は，より多くの地区住民のニーズに応えられるよう，Bリハ事業の実施内容等を検討したり，関係機関と連携をとり対象者を支援したりしていた。また対象者の変化に対応できるよう方策をとったり，他事業との中でスケジュールを調整したりしていた。常に事業目的を果たすことを前提とし，将来の健康障害予防の視点を持っていた。

3. 5 過去の個別援助の経験と，他保健師や他地区の実践例を活動に反映させる（特徴⑤）

保健師は，過去の個別援助の経験を，対象者への家庭訪問に生かしたり，他保健師や他地区の成功例や反省点をBリハ事業に反映させたりしていた。

3. 6 事業目的を達成すること，より多くの住民のニーズを満たすこと，住民の主体性を促すことを重視する（特徴⑥）

表1 保健師の行為・考え・判断の内容と特徴

分析の視点	保健師の行為・考え・判断の内容	特徴
a. 地区住民のニーズ把握	<ul style="list-style-type: none"> 対象者への家庭訪問と協力員・町内役員に直接会って話を聞くことにより、住民の生活の様子、近隣関係の特徴、地区の成り立ち、住民に共通する健康生活上の課題とニーズを把握する 町内役員が感じている住民の健康生活上の課題を把握する 協力員・町内役員・対象者のBリハ事業への関心と理解、反応を把握する 協力員の健康状態、人柄、住民との親密性、協力員間の人間関係、住民の健康生活上の課題への関心を把握する 協力員・対象者と信頼関係を築いていけるよう、初めの出会い方に配慮する 	①信頼関係が築けるよう配慮しながら個別援助を重ね、住民の健康生活上の課題とニーズ、対応策の方向性を明確にする
b. 地区住民のニーズへの対応	<ul style="list-style-type: none"> Bリハ事業を、虚弱高齢者の町内自治への参加、同年代の住民との交流、社会参加への契機とする 働き盛りの世代の協力員が、老人の健康に関心を持ってつながり合えるきっかけをつくる Bリハ事業を通し住民の力を引き出し、住民同士が力を合わせるようになることを促す 協力員・町内役員・老人会員にBリハ事業の理解・協力を得、役割を共有し、共に企画する 協力員・町内役員と地区住民の健康生活上の課題について共有し、課題解決への過程を共に歩む姿勢を持つ 協力員・町内役員・対象者のBリハ事業の実施方法についての思い・意向を尊重する Bリハ事業実施にあたっての課題は住民と共に解決する姿勢を持つ 協力員・町内役員・老人会員に直接会い、関心を引き、Bリハ事業への理解・関心が高まるよう働きかける 協力員・対象者がBリハ事業を実施することにやりがいを感じられるよう働きかける 協力員のBリハ事業での役割に対する負担感、住民主体の活動に対する不安を感じ取る 協力員と対象者の不安の軽減を図る 協力員が自分の役割を認識し、主体的な行動がとれるよう働きかける 	②世代を超えて、住民同士が健康の視点を通してつながり合えるきっかけをつくる ③地区住民の健康生活上の課題解決への過程を住民と共に歩む中で、住民の主体性を促す
	<ul style="list-style-type: none"> 事業目的を果たしながら、より多くの地区住民のニーズに答えられるよう、実施内容を検討する 事業実施場所が適当か、場所と周囲の環境を確認する 対象者のニーズ、健康レベルに応じた事業への参加方法を検討する 対象者のニーズに応じ関係機関と連携をとり支援する 対象者の変化に対応できるよう、健康状態・生活の様子を定期的に把握するようにする 他事業との中でスケジュールを調整しながら、かつ対象者のニーズも満たせるように支援する 住民の将来の健康障害予防の視点を持ち、Bリハ事業の対象者を判断する 	④事業目的を果たすことを前提に、将来の健康障害予防の視点を持ち、より多くの地区住民のニーズを満たすことができるよう対策をとる
	<ul style="list-style-type: none"> 保健師の過去の個別援助の経験に基づき、対象者への家庭訪問前に把握できた情報からニーズを想像し、家庭訪問時の観察項目・聴取項目を確認する 保健師の過去の個別援助の経験や、他保健師や他地区の実践例を活動に生かす 	⑤過去の個別援助の経験と、他保健師や他地区の実践例を活動に反映させる
c. 地区住民の優先度の判断	<ul style="list-style-type: none"> 事業目的を達成できること、Bリハ事業を必要としている住民が多く参加できることを考慮し、事業実施地区の優先度を判断する 地区でBリハ事業を早く開始することよりも、住民が主体的にBリハ事業を実施できるようにする 	⑥事業目的を達成すること、より多くの住民のニーズを満たすこと、住民の主体性を促すことを重視する
d. 地区住民のニーズに見合った保健行政サービスとしての取り組み方法	<ul style="list-style-type: none"> Bリハ事業継続に向け、住民全体がBリハ事業に関心が持てるよう働きかける 町内役員と住民の理解・協力を得て、協力員の負担が大きくなるようにしない 協力員・町内役員・老人会員のBリハ事業に対する意見を聞く機会を設ける 協力員と町内役員に保健師と住民との間のパイプ役を担ってもらい、町内自治に則るように住民の理解を得る Bリハ事業への協力が得られない住民に対し、事業を継続していく中で理解が得られるよう働きかける 住民の保健事業参加が地区での自主的な活動につながるよう働きかける 住民のニーズに応じ様々な保健事業を実施することを積み重ねる中で、住民と信頼関係を築き、健康への関心を高め、協力員を育成する 協力員の学習の機会と、協力員共通の悩み・課題を共有できる機会を設ける 似た健康状態の住民を対象としている他事業との兼ね合いを考慮し、市内の地域ケアシステムについての課題を明確にする 関係機関との連携のもとBリハ事業を実施できるよう、関係機関に働きかける Bリハ事業における関係機関への働きかけが、他事業での連携強化につながることをねらう 	⑦地区での継続した事業実施体制づくりに向け、住民による支援体制を整える
	<ul style="list-style-type: none"> 事業実施について地区住民に働きかける一方、全市民に公平にサービスを提供できるよう、市内健康推進員全員に働きかける まず介護予防に関心がある住民にBリハ事業を提案し、全市民に提供する 健康推進員への働きかけが、その家族や地区住民へと波及することをねらう 一部の住民に対するBリハ事業の効果を他住民にも広げるよう努める Bリハ事業を実施しながら、事業目的達成のための次の課題を見出す 	⑧住民のニーズに応じ保健事業を実施することを重ね、住民の健康づくりに必要な資源を整える
	<ul style="list-style-type: none"> 受け持ち地区を持たない業務体制の中で、地区住民のニーズを把握し、地区住民に直接働きかける機会とする Bリハ事業を地区の世代を越えた人間関係を深める機会とする 関係機関との連携を強化する機会とする 	⑨全市民に対する保健行政サービスの公平な実施に向け働きかける
e. 国で企画された保健事業の活用	<ul style="list-style-type: none"> 受け持ち地区を持たない業務体制の中で、地区住民のニーズを把握し、地区住民に直接働きかける機会とする Bリハ事業を地区の世代を越えた人間関係を深める機会とする 関係機関との連携を強化する機会とする 	⑩国で企画された保健事業を活用して、地区住民の健康生活上のニーズに対応する機会とする

保健師は、Bリハ事業を優先的に実施する地区を判断する際、事業目的を達成するため、住民との協働により事業を実施できること、地区に事業

をより必要としている住民がより多くいること、を判断基準にしていた。また事業開始に向け準備を進める際は、保健師主体で早く事業を開始して

しまうことなく、住民が主体的に事業を実施できるようにしていた。

3. 7 地区での継続した事業実施体制づくりに向け、住民による支援体制を整える (特徴⑦)

保健師は、Bリハ事業が地区住民によって継続して実施されるよう、また事業継続が一部の住民のみの負担にならないよう、住民の意見を聞く機会を設け、地区住民全体がBリハ事業について関心が持てるよう働きかけていた。また、協力員と町内役員に、保健師と住民とのパイプ役を担ってもらい、地区でのやり方によって住民の理解を得、事業開始時に協力が得られない住民に対しては、事業を継続していく中で理解が得られるよう配慮していた。

3. 8 住民のニーズに応じ保健事業を実施することを重ね、住民の健康づくりに必要な資源を整える (特徴⑧)

保健師は、住民の保健事業参加が地区での自主的な活動につながるよう支援する等、住民のニーズに応じ様々な保健事業を実施することを重ねる中で、住民と信頼関係を築き、健康への関心を高め、Bリハ事業の協力員を育成していた。また、協力員が学習したり、悩み・課題を共有したりできる機会を設け、住民がBリハ事業を継続して実施していくための資源を整えていた。似た健康状態の住民を対象にしている他事業との兼ね合いを考慮してBリハ事業を実施し、市内の地域ケアシステムについての課題を明確にしたり、関係機関との連携のもとBリハ事業を実施できるよう働きかけ、その働きかけが他事業での関係機関との連携強化につながることをねらったりしていた。

3. 9 全市民に対する保健行政サービスの公平な実施に向け働きかける (特徴⑨)

保健師は、全市民に公平にサービスを提供できるよう、市内健康推進員全員と介護予防に関心がある住民に働きかけていた。また、一部の住民に対する働きかけや事業の効果を他住民にも広げるよう努めたり、健康な地域をつくるための次の課題を見い出したりしていた。

3. 10 国で企画された保健事業を活用して、地区住民の健康生活上のニーズに対応する機会とする (特徴⑩)

保健師は、国で企画されたBリハ事業を、普段

把握している地区住民の健康生活上のニーズに対応させて提供し、世代を超えた人間関係を深めたり、関係機関との連携を強化したりする機会としていた。

4. 考 察

結果で得られた10の特徴から、保健師の地区活動について考察する。文中の()内の特徴の番号は表1の特徴の番号に対応している。

4. 1 個別援助の積み重ねによる、地区住民・全市民の健康生活に貢献する方向性の明確化

保健師は、個別援助を重ね、住民の健康生活上の課題とニーズを明確にし(特徴①)、その解決に向けより多くの地区住民のニーズを満たすことができるよう対策をとり(特徴④)、全市民に対する保健行政サービスの公平な実施に向け働きかけていた(特徴⑨)。先行研究においても保健師の判断内容として、個別援助の積み重ねを通して地区全体の課題を見つけること⁸⁾、活動の拡大や波及効果を考えること、個別ケアを基に地域全体を見据えた活動を志向すること⁹⁾、が明らかにされている。保健師の地区活動とは、個別援助を積み重ね、地区住民・全市民の健康生活に貢献する方向性を明確にするものであると考えられる。

4. 2 住民の主体性と地区住民全体での課題解決の促進

保健師は、地区住民と事業を企画・実施し、健康生活上の課題解決への過程を共に歩む中で、住民が元々持っている関心を引き出す、やりがいを感じられるようにする等、主体的な行動への動機付けを強めるための支援を重ね、住民の主体性を促していた(特徴③)。また保健師は、事業目的を達成することを重視し(特徴⑥)、組織・世代を超えて住民同士が健康の視点を通してつながり合えるきっかけをつくり(特徴②)、地区住民全体での課題解決を促していた。先行研究においても、保健師が重視していることとして、自分自身や家族、他の住民の健康への関心を高め、住民が健康課題に主体的に取り組む意欲を高めることが挙げられている¹⁰⁾。保健師の地区活動とは、住民との協働の中で、住民の主体性と地区住民全体での課題解決を促すものであると考えられる。住民の健康意識の向上を図り、主体的に健康課題に向かうことを促すこれらの支援は、保健師としての基本的な原則に沿った支援である。

4. 3 保健事業実施の積み重ねによる、住民による支援体制づくりと地域の資源の整備

保健師は、Bリハ事業実施のため地区住民全体の理解が得られるよう働きかけたり、Bリハ事業継続に向け、住民による支援体制を整えたりしていた(特徴⑦)。また、住民の保健事業参加が地区での自主的な活動につながるよう働きかけていた。協力員の養成や関係機関との連携強化のための働きかけを行う等、保健事業を実施することを重ね、住民の健康づくりに必要な資源を整えていた(特徴⑧)。先行研究においても、保健師は、事業を企画、実施し、定着させるプロセスの中で、事業実施のために住民の体制を整えたり、関係組織の協力体制を作ったりしていることが明らかにされている¹¹⁾。また、保健師が重視していることとして、住民や関係機関と協働しサポートシステムを構築することにより健康な地域社会をつくることが挙げられている¹⁰⁾。これらのことより保健師の地区活動とは、保健事業を実施することを重ね、住民による支援体制と地域の資源を整えるものであると考えられる。

4. 4 国や県で企画された事業の活用

保健師は、過去の個別援助の経験と他保健師や他地区の実践例を活動に反映させながら(特徴⑤)、国で企画されたBリハ事業を切り口に地域に入り、Bリハ事業を住民の実情に合うように整えながら提供していた。また国で企画されたBリハ事業を活用して、地区住民の健康生活上のニーズに対応する機会としていた(特徴⑩)。保健師の施策化に関する文献レビューでは、「政策に基づく施策化」と「ニーズからの施策化」の2方向があるという知見が得られている¹²⁾。また、保健師活動における事業過程の特徴を明らかにした研究¹¹⁾では、保健師は必要な事業を国や県の施策、モデル事業や補助金事業などに位置づけるという方法を用いて事業化していることが明らかにされている。これらのことより、保健師の地区活動とは、国や都道府県で企画された事業を、地区住民のニーズに対応させ、地区住民の実情に合うように整えて提供する、という特徴をもつものであると考えられる。

4. 5 本研究の意義と限界

本研究は、Bリハ事業を例に、保健師経験が4年の1名の保健師の実践過程を分析したものであるという限界があるが、保健師の行為・考え・判断を記述する方法により、保健師の地区活動の特

徴を明確にすることができた。この方法を用い、保健師活動の実態を明確にすることで、保健師同士で活動を共有でき、保健師活動の質を向上させることができると考えられる。

5. 結 語

保健師の地区活動の特徴を明確にすることを目的として、B型機能訓練事業を例に保健師の実践過程を記述し、保健師の行為・考え・判断を分析した。その結果、109件の保健師の行為・考え・判断の記述が得られ、10の特徴が取り出された。結果から、保健師の地区活動には、「個別援助を積み重ね、地区住民・全市民の健康生活に貢献する方向性を明確にする」「住民との協働の中で、住民の主体性と地区住民全体での課題解決を促す」「保健事業を実施することを重ね、住民による支援体制と地域の資源を整える」「国や都道府県で企画された事業を、地区住民のニーズに対応させ、地区住民の実情に合うように整えて提供する」の4つの特徴がみられた。

本論文は、石川県立看護大学附属地域ケア総合センター調査研究事業の助成を受けて行った研究の一部である。(助成年度平成15年度～17年度)

引用・参考文献

- 1) 平山朝子, 宮地文子, 北山美津子, 他3名: 公衆衛生看護学総論1 第3版公衆衛生看護学大系1. 日本看護協会出版会, 54-65, 1999.
- 2) 厚生労働省健康局長通知:平成15年10月10日「地域における保健師の保健活動について」
- 3) 厚生労働省健康局総務課長通知:平成15年10月10日「地域における保健師の保健活動について」
- 4) 厚生労働省老人保健福祉局長通知:平成13年5月25日「介護予防・生活支援事業の実施について」
- 5) 厚生省老人保健福祉局長通知:平成12年3月31日「保健事業実施要領の全部改正について」
- 6) 小松市:平成13年版小松市統計書, <http://www.city.komatsu.ishikawa.jp/>
- 7) 田村須賀子, 平井絵理:保健行政サービス企画・評価における保健師の意図に関する研究, 石川県立看護大学附属地域ケア総合センター事業報告書第3巻, 2005.
- 8) 俵麻紀, 北山三津子, 御子柴裕子, 他2名:ベテラン保健師が行っている地区診断のための情報収集の特徴 母子保健活動より, 保健婦雑誌, 59(9), 856-863, 2003.

- 9) 塩見美抄, 岡本玲子: 事業・施策展開を要する課題の明確化に向けた保健師の判断内容, 日本地域看護学会誌, 7(1), 41-48, 2004.
- 10) 山口佳子: 行政サービスとして機能する看護職が果たそうとしている役割, 日本地域看護学会誌, 1(1), 56-62, 1999.
- 11) 安齋由貴子, 吉田澄恵, 麻原きよみ, 他3名: 市町村保健師が新たに立ち上げた活動の事業過程としての特徴, 日本地域看護学会誌, 7(1), 55-61, 2004.
- 12) 吉岡京子, 岡本有子, 村嶋幸代: 日本の地方公共団体に働く保健師の施策化に関する文献レビュー, 日本地域看護学会誌, 5(2), 109-117, 2003.
- (受付: 2005年3月31日, 受理: 2005年4月27日)

Characteristics of Community-based Practice Performed by Public Health Nurses in a Community Rehabilitation Program

Eri UESUGI, Sugako TAMURA

Abstract

The purpose of this research is to clarify the characteristics in community-based practice performed by public health nurses. The focus of the study is on the process practiced by one public health nurse in a community rehabilitation program. We analyzed this particular nurse's actions, thoughts and judgments and, as a result, identified 109 actions/thoughts/judgments and 10 characteristics of public health nursing practice. Based on this, the following 4 areas were considered to be characteristics of community-based practice performed by public health nurses who: 1) clarifies a course of practice that may contribute to the healthy life of the community and its citizens; 2) encourages active co-operation by the community and autonomous issue resolution; 3) arranges the community structure and the organization of community people; and 4) implements national and local government measures while tailoring them to match the needs of the community residents.

Keywords community-based public health nursing practice, action/thought/judgment by public health nurses, community rehabilitation program